

ポート・モレスビー市内の状況（ホテルの屋上を中心として）

自主グループ（ニューギニア） 宮坂正大

パプア・ニューギニアの首都ポートモレスビー市内では広電、星の手帖、自主グループの三隊が観測を行ないました。市内は当日快晴に恵まれ、すべての隊が観測に成功しました。

まず、広電のグループを簡単に紹介します。広電は7名＋子供1名の計8名でホテル（トラベロッジ、以下同じ）から7 kmほど離れた銀行の前の広場にて観測しました。天気は快晴で、第1～第4接触まで完全に成功したそうです。広電には面白い話がありました。広電の人たちを観測地まで運んだバスの運転手が日食が半分ほど進んだ頃「日食が恐いから家へ帰る。また後で迎えに来る。」と言って逃げ出したそうです。なお、皆さん無事に帰って来ました。

次にホテルの屋上では星の手帖23名中17名、自主グループ11名中4名、オーストラリア人一家4名とホテルの従業員数名が観測を行ないました。我々は前日までのミーティングで郊外へ行く班とホテルに残る班の二班に分ける事に決め、郊外班は午前中にホテルを出発しました。当日は朝から薄い絹雲が出始め天気が心配されましたが、昼頃入った郊外班からの連絡によると観測地は大変良い所だという事で、ホテル班は向うへ行こうか迷いましたが、結局予定どおりホテルに残る事に決めました。しかし、もしも曇った場合を考えホテルの前にバスをいつでも出発できるように用意させました。その後、幸い第1接触が近づくにつれ、絹雲も薄くなり他に多少雲があったものの太陽付近は完全に晴れ、大成功に終わりました。

ホテルの屋上では博物館の村山先生が本影錐を見えています。シャドーバンドは見えませんでした。気温は日なたで4℃下がり、日蔭ではほとんど変化しませんでした。また、オーストラリア人が用意した短波受信機による標準電波が役立ちました。発信地はオーストラリアのメルボルンで、受信状態はかなり良好でした。ただし、周波数は聞いたのですが忘れてしまい残念に思っています。（編集部註：VNG, 4.5, 7.5, 12 MHz のうち 12 MHz と思われます）

ホテルでは従業員も観望しましたが、ニューギニアでは政府が日食を見るなどとは言わず、正しい見方、たとえばピンボールの原理で紙に小穴を開け、地面に写して見る方法などをポスター等で教えていました。現地の人々も特に怖がっている様子はありませんでした。ただし、広電の運転手は例外で、インドネシアとは大分違ったようです。

先ほど広電のエピソードを紹介しましたが、私たちにも楽しい話がありました。ホテル前に待機させたバスの運転手は我々の指示を忠実に守り、ずっとエンジンをつけて待っていたそうです。実はその頃、我々はすっかりバスの事を忘れていたのですが、なんと彼は皆既中もライトをつけっぱなしにして運転席に座っていたそうです。もう一つ、今回ポートモレスビーにも数組の新婚さんがいましたが、その一組の女性がウェディング・ドレス姿を我々に披露してくれました。日食旅行での新婚カップルは、もう珍らしくありませんが、これは恐らく初めてでしょう。